

帰ってきた

## ミュージアムへのいざない ～沖縄本島編～

みなさんは、沖縄県内の博物館／博物館等施設を訪れたことがあるでしょうか。趣味で巡っていたり、受講中の講義に関係があって足を運んだり、そして全く行ったことがない方もいるでしょう。

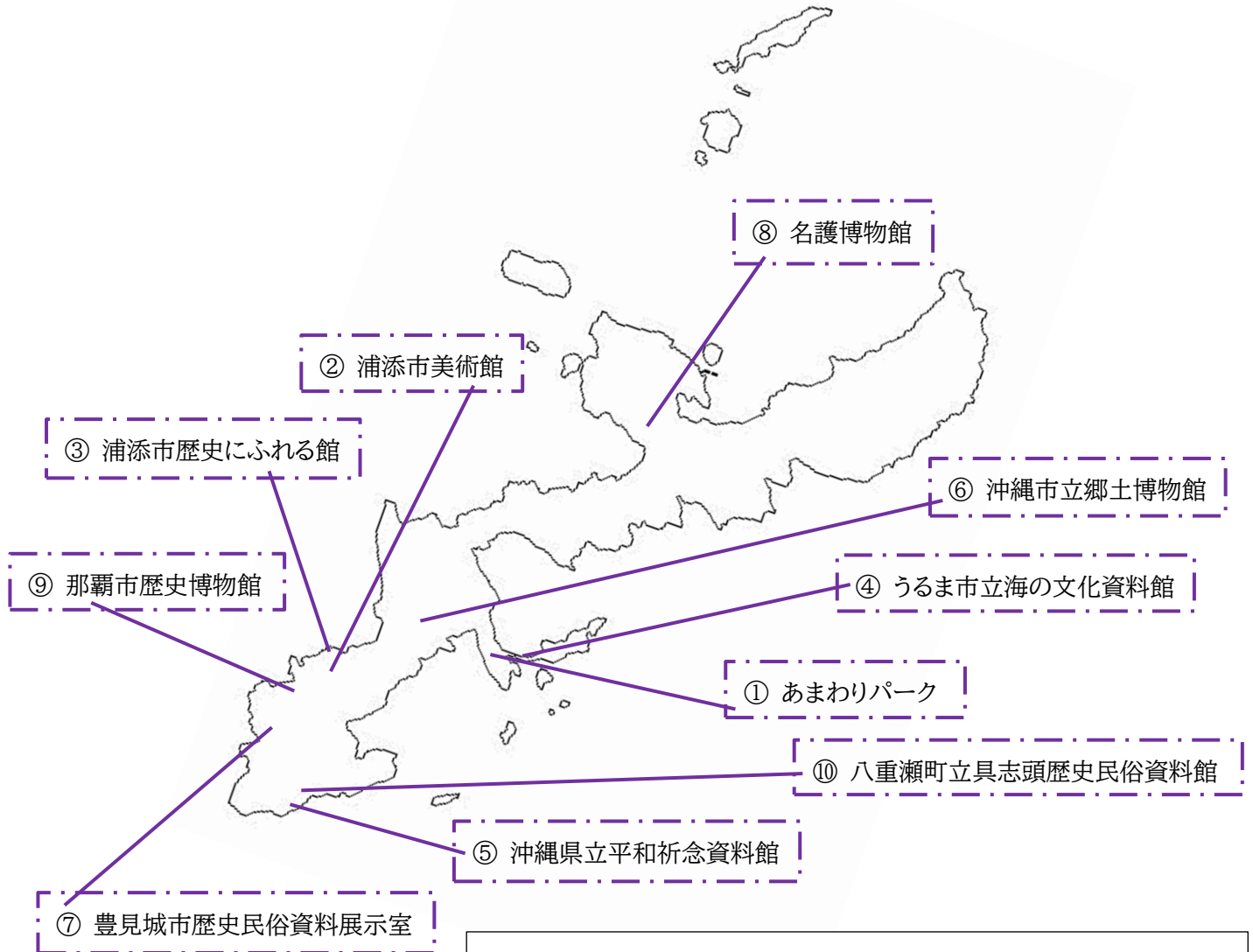
沖縄県内には 2022 年 5 月時点で、88 ヲ所もの博物館等施設が存在します※。今回は、それらに含まれていない施設も何カ所か含めて、ご紹介します。（前回の内容は[こちら](#)。）

博物館の強みは、視覚や聴覚、時には触覚によって、自ら体感して学ぶことができる点ではないでしょうか。博物館見学を通して様々な視点で地域の歴史や文化を学ぶことは、刺激的な体験になるであろうと思います。大学での学びに加え、ぜひ皆さんには博物館を活用してほしいです！

特に、進学を機に沖縄で生活を始めた方は、沖縄に対する理解を深めるためにも、博物館に足を運んでいただきたいです。そして、今回紹介した所以外も探してみてください！

※ 沖縄県教育庁文化財課(2023)「文化財課要覧(令和4年度版)※抜粋版 VII博物館に関すること」参照。

☆ おすすめの博物館等施設(番号は50音順でつけ、p.2-4の紹介文と対応させています。)



画像元「無料で使える日本地図のイラスト集 | 無料で使える沖縄県のイラスト素材」  
<https://map.finemakeyuri.com/map/551.html>

☆ おすすめの博物館等施設(番号は50音順でつけ、p.1の地図と対応しています。)

① あまわりパーク(うるま市)

開館時間:9時~18時 休館日:年中無休

公式HP:

<https://www.katsuren-jo.jp/%E3%81%82%E3%81%BE%E3%82%8F%E3%82%8A%E3%83%91%E3%83%BC%E3%82%AF/>

あまわりパークは2021年にオープンしました。世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の1つである、勝連城跡の道向かいに位置しています。あまわりパーク内にある展示室は、比較的小規模ではありますが、勝連城跡への理解が深まる場所となっています。土日祝日には、阿麻和利に関連するライブパフォーマンスが、間近で見られますよ！

② 浦添市美術館(浦添市)

開館時間:9時半~17時(金曜日は19時まで) 休館日:毎週月曜日・年末年始など

公式HP:

<https://www.city.urasoe.lg.jp/facilityDetail?articleId=60d4005664667334e2f6c438&categoryId=20201010>

浦添市美術館は、「日本初の漆芸専門美術館」です。常設展示では、年2-3回ほどテーマを変えながら展示が行われ、琉球漆器をはじめとする数々の漆器を見ることができます。ちなみに、個人的に大好きな漆器は、戦前に紅房によって作られた「朱黒漆帯切込球型ボンボン入」です。企画展示では、漆器や美術関係に限らない、ユニークな展示会が行われています。また、年に1回のペースで、葛飾北斎作「琉球八景」や沖縄戦関連の版画の展示が行われています。

③ 浦添市歴史にふれる館(浦添市)

開館時間:9時半~17時 休館日:土日祝日・慰霊の日・年末年始

この館はコンパクトながら、浦添の歴史の流れを理解できる展示が見られます。様々な資料につけられた説明文も、歴史に対する知識や資料自体の理解を深めることに役立ちます。やかんやクバ笠など、一部の資料は、実際に触れることも可能です。そして、他館にない大きな特徴として、ここでは収蔵庫の一部を見学することができます。内容は、大型の民具の他に、蔵骨器(厨子甕)がかなりの割合を占めています。場所は西海岸道路の近くですが、少々迷いやすいところなので、来館時はルートを入念にチェックしてください。

④ うるま市立海の文化資料館(うるま市)

開館時間:9時~17時 休館日:毎週月曜日・祝日の翌日

公式ブログ:<https://umibun.ti-da.net/>

ここは海中道路の途中にある、海の駅あやはし館の2階に所在しています。山原船(マーラン船)を中心に、船の作り方や、船大工の道具などが展示されています。サバニなど、実際に使用されていた船もいくつか館内にあり、かなり迫力がある展示となっています。少しですが、海中道路ができた経緯にも触れています。また、館内の奥には、うるま市与那城出身のアーティスト、HYのミュージアムである「HeartY Museum」があります。

⑤ 沖縄県立平和祈念資料館(糸満市)

開館時間:9時～17時 休館日:年末年始など

公式HP:<http://peace-museum.okinawa.jp/index.html>

沖縄戦に至る歴史と戦争の実態、平和を求める戦後沖縄の復興について知ることができます。沖縄戦に関する写真や動画、様々な遺物やジオラマを、じっくり時間をかけて見ていただきたいです。沖縄戦の証言を読めるエリアでは、体験者の話を映像でみることもできます。最後のエリアには、戦後復興期の街の再現があり、そこも細部まで作りこまれています。一連の展示から、沖縄戦の実情と戦後史の流れを感じてほしいです。

⑥ 沖縄市立郷土博物館(沖縄市)

開館時間:9時～17時 休館日:毎週月曜日・祝日(文化の日は開館)・慰霊の日・年末年始

公式HP:

<https://www.city.okinawa.okinawa.jp/k063/sportsbunka/hakubutsukan/kyoudohakubutsukan/134/index.html>

ここでは沖縄市の歴史について、幅広く知ることができます。同市には「ヒストリート」も存在しますが、そこは主に戦後史を取り扱っています。歴史の流れを知る上では、両館とも訪ねることをおすすめします。常設展示は2部屋に分かれており、それぞれ貝塚時代からの沖縄市の歴史・民俗に関するものや、昆虫標本をはじめとする自然系の知識を得られます。展示数自体はそれほど多くありませんが、地域行事に目が向けられるなど、沖縄市を知るには効果的な展示になっていると思います。

⑦ 豊見城市歴史民俗資料展示室(豊見城市)

開室時間:9時～17時(12時～13時は休憩時間) 休室日:毎週月曜日・祝日・年末年始など

公式HP:<https://www.city.tomigusuku.lg.jp/soshiki/8/1035/gyomuannai/2/4/326.html>

同じ建物に市立図書館と展示室があり、展示室は1階に位置しています。このワンフロアに、ぎっしりと豊見城の歴史が詰まっています。常設展示には、「真玉橋」など市指定文化財関連のものや、かつて豊見城に滞在していたというジョン万次郎に関するものもあります。また、様々な博物館にて民具や農具は所蔵されていますが、オリジナリティあふれる民具や細かな説明文など、特徴ある展示となっていました。その点も確認してみてください。

⑧ 名護博物館(名護市)

開館時間:10時～18時 休館日:毎週月曜日・年末年始・祝日・慰霊の日・毎月第4木曜日など

公式HP:<https://www.city.nago.okinawa.jp/museum/>

名護博物館は、2023年5月にリニューアルオープンしました。この新館は、とても自然豊かな場所に立地しています。1階と古民家は無料で見学でき、2階の常設展示室から有料となっています。1番の注目ポイントは、常設展示室の始めにあるクジラの骨格標本です。見た瞬間、きっとワクワクするのではと思います。その他の展示もリアリティがあつたり、間近で資料を見れたりできて、非常に興味深いです。名護市だけではなく、沖縄北部地域全体の歴史や生活を知ることができます。

⑨ 那覇市歴史博物館(那覇市)

開館時間:10 時～19 時 休館日:毎週木曜日・年末年始など

公式 HP:<http://www.rekishi-archive.city.naha.okinawa.jp/>

デパートリウボウの 4 階に位置する博物館です。常設展示では、王族が身につけていた紅型衣装や美術品など、国宝を見ることができます。そして、琉球国王が身につけていた「玉冠」の展示も行っています。普段は、精巧なレプリカが展示されていますが、定期的に本物の「玉冠」の展示も行われています。1 年を通して、企画展示のイベントも盛んに行っており、企画展ごとに発刊される関連冊子が購入できます。

⑩ 八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館(八重瀬町)

開館時間:9 時～17 時 休館日:毎週月曜日・祝日の翌日・慰霊の日・年末年始

公式 HP:<https://www.town.yaese.lg.jp/docs/2019022100054/>

資料館の 1 階には、沖縄の自由民権運動に関わった、東風平出身の謝花昇関連の展示がされています。謝花が活動していた明治時代にフォーカスした展示は、県内では珍しいです。2 階には、具志頭で発見された港川人の展示や、八重瀬の暮らしや歴史に関わる展示があります。見学後に、謝花昇の銅像(東風平運動公園内)や、港川人が発掘された港川フィッシャー遺跡(港川遺跡公園)も合わせて訪ねてみるのもおすすめです。

※情報は 2023 年 6 月現在のものです。詳細や最新情報は、公式 HP 等をご確認ください。

参考

浦添市「歴史にふれる館リーフレット」, <https://prdurbanosursappl.blob.core.windows.net/common-article/609e85013d59ae2434bffd5f/rekisinhureruyakata.pdf> (最終閲覧:2023/6/9).

うるま市観光物産協会公式 Web サイト「うるまいろ」「海中道路」, <https://uruma-ru.jp/see/sea-road/> (最終閲覧:2023/6/9).

沖縄県教育庁文化財課(2023)「文化財課要覧(令和 4 年度版)※抜粋版 VII博物館に関すること」,

[https://www.pref.okinawa.jp/edu/bunkazai/edu/jimukyoku/bunkazai/documents/r4\\_8.pdf](https://www.pref.okinawa.jp/edu/bunkazai/edu/jimukyoku/bunkazai/documents/r4_8.pdf) (最終閲覧:2023/6/9).

(地域共創研究科 M2 歴史系 TA)